

かがや

輝きブック



R8.1.13 全校写真撮影/撮影:望月導章さん

静岡県立清水特別支援学校

(書 金澤翔子)

こうしょう ゆらい
〔校章の由来〕

じどうせいと の かぞく ちいき がっこう
児童生徒を乗せた家族、地域、学校という

そう ふね わ たが ささ あ
3艘の船が輪となって、お互いを支え合い、

いまかぜ う みらい む こ だ ようす あらわ
今風を受け、未来に向け漕ぎ出す様子を表しています。



さく しずおかけんりつ し みずみなみこうとうがっこう げいじゆつ か
作 静岡県立清水南高等学校 芸術科



たいそうふく しょう
体操服に使用されているマーク



しき ちない ちゅうしん
敷地内ロータリーの中心にあるマーク

みなみ おかぶんこう へいばんはんさくせい
(南の丘分校/エコ平板班作成)

この度、清水特別支援学校の教育活動を紹介します。こどもたちの輝き、家庭で支える喜びの輝き、地域の輪が放つ輝き、指導支援する教員の輝きを「輝きブック」という冊子にまとめました。内容は、本校のホームページやInstagramでも見ることができます。

ぜひ、清水特別支援学校の輝きを御覧ください。



ホームぺージ



Instagram

目次

1	巻頭言	1
2	歴代校長の言葉（※敬称略）	
	(1) 太田 実（初代）	2～3
	(2) 小岱 和代（第2代）	4
	(3) 坪井 康人（第3代）	5
	(4) 鱒口 昌安（第4代）	6
	(5) 成岡 裕司（第5代）	7
3	学校運営協議委員の言葉（※敬称略）	
	(1) 青木 清之（PTA会長）	8
	(2) 天野 院明（秋葉山本坊峰本院 住職）	8
	(3) 井上 靖之（飯田地区社会福祉協議会 企画委員長）	9
	(4) 大島 章嗣（日軽金オーリス株式会社 事業部事業部長）	9
	(5) 小倉 淳司（静岡市清水区役所 地域総務課長）	10
	(6) 佐野 可代子（NPOたからじま 理事長）	10
	(7) 望月 導章（株式会社バタフライ・エフェクト 就労継続支援B型キャンパス営業部長）	11
4	家庭での輝き	
	(1) 小学部	12～18
	(2) 中学部	19～21
	(3) 高等部	22～25
5	校内での輝き	
	(1)小学部	
	ア 縦割り活動	26
	イ 小学部運動会	27～28
	ウ 焼津新聞を作ろう！（5年宿泊学習）	29
	エ 修学旅行（6年）	30
	オ 小学部マラソン大会	31
	(2)中学部	
	ア 清水の自慢Ⅰ（1年生）	32
	イ 清水の自慢Ⅱ（2年生）	33
	ウ 清水から静岡へ、そして名古屋の自慢へ（3年生）	34
	エ 中学部スポーツフェスティバル（スポフェス）	35
	オ 中学部港かつぽれ発表会（体育集団演舞）	36
	カ 作業製品発表会	37

(3) 高等部

ア 保全ボランティア活動（三保松原の松葉かき）	38
イ 職場見学（1年）、職場実習決意表明式・報告会（2、3年）	39
ウ ハートランド清掃指導（1年）、日軽金オーリス講話（3年）	40
エ 薬学講座、非行防止講座、消費者講座	41
オ 清水区未来創造トーク	42
カ 作業学習の様子	43
キ 主権者教育（高等部 生徒会選挙）	44
ク 清水南高校 音楽交流（1年）	45
ケ 集団職場実習（1年）	46
コ スポーツ大会	47
サ 静岡の魅力発見（1、2年校外学習）	48
シ 修学旅行（3年）	49
ス シミズ・フェス（高等部 作業製品販売会）	50

(4) その他

ア 移動図書	51
イ 昼の放送	51
ウ かがやき参観会	52
エ 実習支援員の活躍	52

6 地域の匠とのコラボレーション

(1) 飯田地区ボランティア（遊びの会、花壇ボランティア、ゲストティーチャー）	53
(2) お話の会	53
(3) たちばな蜂文末（はぶみ）会 お日待ち太鼓『和太鼓演奏』	54
(4) NPO法人静岡F I Dサッカー連盟 サッカー教室	54
(5) 静岡県埋蔵文化財センター出前授業 ミニミニはにわ(土偶)作り体験	55
(6) おやじサロン“ぎやるそん”芋ほり	55
(7) WAZAチャレンジ教室 フラワーアレンジメント	56
(8) ラジオ体操連盟	56
(9) 100万人のクラシックライブ	57
(10) 令和7年度アスリート派遣等による体育授業等の充実・高度化の促進事業(スポーツ庁委託事業)	57
(11) I A I パラスポーツパークでの活動	58
(12) J A しみずからの技術指導（高等部作業学習/農工芸班）	58
(13) 金澤さんからの技術指導（高等部作業学習/リサイクル工芸班）	59
(14) 洋服の青山、POLA、資生堂（高等部3年）	59

7	地域資源の活用記録	
(1)	小学部	60～61
(2)	中学部	62～63
(3)	高等部	64～65
8	学校間交流の足跡	
(1)	小学部	
	ア 清水飯田東小学校	66
(2)	中学部	
	ア 清水第五中学校	66
	イ 清水袖師中学校	67
	ウ 清水飯田中学校	67
(3)	高等部	
	ア 清水東高校（文化祭、特別支援学校見学希望生徒、サッカー部、美術部）	68
	イ 清水南高校（音楽）	69
9	地域との関連事業	
(1)	児童生徒作品展示及び広報活動	
	ア 輝きギャラリー	70
	イ 中学校文化連盟（中文連）	71
	ウ 高等学校文化連盟（高文連）	71
	エ 静岡県高等学校総合文化祭（総文祭）	72
	オ 静岡地区探究コンソーシアム 5校コラボ作品展	73～74
	カ 清水南高等学校美術交流	75
(2)	地域・企業・PTAと連携した事業	
	ア 総合防災訓練	76
	イ お茶プロジェクト	77
	ウ 松葉かき交流会	78
	エ PTA清掃作業・日軽金オーリス	79
10	地域への参加	
(1)	七夕まつり	80
(2)	第36回静岡市清水区障害者スポーツフェスティバル	81
(3)	清水エスパルス静岡市内高等学校コラボ企画	82
(4)	清水区未来創造トーク	83
(5)	日軽祭	84
(6)	福祉のまつり2025	84

(7) 飯田まつり	85
(8) 秋葉山大祭	85
(9) しみずワクワクまつり	86
(10) くふうハヤテベンチャーズ静岡（現 ハヤテベンチャーズ静岡）応援	86
(11) 静岡県SDGsスクールアワード 2025	87
(12) SHIUOKA TANKYU COLLECTION	87
(13) しずおか高校生探究フェスタ	88
11 研究、研修の記録	
(1) 令和7年度の研修	89～92
(2) 教育課程検討プロジェクト	93
(3) ICT推進プロジェクト	93
(4) はごろも『夢』講演会	94
(5) 清特OJT	94
(6) 研修①/自立活動研修会（香野 毅 先生）	95
(7) 研修②/ASD、ケース会議（弓削 香織 先生）	95
(8) 研修③/OT研修会（伊井 玄 先生）	96
(9) 研修④/食事場面の安全と危険を知ろう！～誤嚥・窒息の予防のために～（大岡 貴史 先生）	96
12 進路学習の記録	
(1) 職場見学、職場実習の計画（高等部）	97
(2) 職場見学、職場実習に御協力いただいた企業（※令和7年度）	98
(3) 生徒の学び	99
13 その他	
(1) 清水区進路合同説明会（清水手をつなぐ育成会）	100
(2) 学校と企業の情報交換会	101
(3) 歯科指導（静岡市障害者歯科保健センター）	102
(4) 寄贈図書「ロッキーブック」（静岡県労働金庫からの寄贈）	102
(5) しみずみらい応援団（JAしみずからの寄贈）	103
(6) 特別支援学校支援事業（公益財団法人スズキ教育文化財団からの寄贈）	103
(7) 清水特支おやじの会	104
(8) セントケア八坂東さんより	104
(9) カメラマン望月 導章さん	105
(10) カメラマン杉山洋一郎さん	105
(11) 清水エスパルス オフィシャルチアリーダー オレンジウェーブ チアダンス	105
14 金澤翔子さんへ	106
15 編集後記	107

巻頭言

～みんなの「輝き」の創造～

特別支援学校は、卒業後の社会参加や自立を大きな目標としています。私が考える社会参加とは、「働くこと」だけに限りません。家族と共に生活すること、地域の中で様々な人と関わりながら暮らすこと、人と挨拶を交わすこと、近くの店へ買い物に行くこと、ひとりで、あるいは仲間とスポーツ観戦や旅行に出かけることなど、そうした日常の一つ一つが社会参加であると考えています。社会参加の目的は、その人が人との関係や興味・関心を広げ、生涯にわたって楽しみややりがいを見つけ、自分らしく生き生きと生活できるようにすることです。静岡県版「共生・共育（インクルーシブ教育システム）」の理念も、まさに一人一人の学びと生活を地域の中で支えていくことの大切さを示しています。そのためには、好きなこと、やりたいこと、得意なことをもち、それらを少しずつ増やしていくことが欠かせません。

清水特別支援学校は、開校以来「こどもの生活づくり」を教育の軸として大切にしてきました。この考えは歴代校長の強い想いとして受け継がれ、今も本校の実践の根底に流れています。学校経営の共通主題「地域を教室に」「地域に遊び、学び、参加する」のもと、すべてのこどもたち、すべての教職員、保護者の皆様、そして学校を支えてくださる地域の方々とともに、学校教育目標「ともにあゆみ ともにかがやく」の実現を目指しています。

この「輝きブック」には、2025年度の教育活動と、こどもたちの「やった」「できた」「もっとやりたい」といった輝き、支援・指導にあたる教職員の輝き、家庭で支える喜びの輝き、そして地域の支援の輪が放つ輝きが綴られています。ぜひ、1ページまた1ページとめくりながら、輝きを感じ取ってください。

学校には、こどもたちの輝きがあふれています。主体的に取り組み、意欲をもつこどもたちは、予測できない出来事に出会っても、周囲の人と関わりながら、自分なりの力で乗り越えていってくれると信じています。

結びに、幸せの四因子である「ありがとう」と感謝する心、「やってみよう」と挑戦する心、「なんとかなる」と前向きに切り替える心、そして「あなたらしく」と自分の良さを大切にする心を大切に、これからも、誰もが輝き（＝幸せ）を感じる学校であり続けます。清特から幸せの風が届きますように…。



静岡県立清水特別支援学校
校長 片岡 佳美

2 歴代校長の言葉（※敬称略）

（1）太田 実（初代校長）

「輝きブック」の発行に寄せて

▼「輝きブック」の主旨は、初版号の巻頭言にすべて詰まっているので、これを読んでいただきたい。その由来は、県のSPACと協働した養護教育課指導班の事業名である。「どの子ども、その子がもっている潜在能力（輝き）を生かして暮らせる」ことの意義とそれへの支援の重要さを地域社会の人々に知ってもらう取組みだった。

改めて伝えたいが、特別支援教育の使命は、「子供の生活づくり」と考える。教育行政用語でいえば、個別の教育支援計画で子供の今と未来に道を造ることである。その資源は、教師・保護者・地域社会の人や仕組みなどである。この資源を使って子供の特長（特徴のうちプラスの要素）を基盤とした生活づくりが、学校の日々の教育活動となる。本校の教育活動の全てがそれであって、これを紹介するのが、「輝きブック」となる。お分かりいただけただろうか。

▼本校の前身的教場であった静岡北養護学校の清水分校では、その立地の特性（施設・設備がない）から、「脱学校化」・「地域を教室に」といった考えで、活動のすべてを組立てた。例えば、水泳は地域の人が泳ぐ清水総合運動場のプールに求め、あるいは清水第三中学校の特別支援学級生徒との同校プールでの合同授業だ。調理学習では近くの公民館の調理室を借り、また次郎長商店街のお店にお願いし、職場学習を行った。今でもよく思い出すが、学校から歩いて行った三保海岸でのバーベキューを皮切りに、足を延ばし、自然や地域の成り立ちに関心を持ちつつ、三保の突端まで歩いたフィールド活動。往復12キロの道のりを汗をふうふうさせながら、生徒たちは成長した。その道すがら、地域の人に声をかけて戴いたり、途中下車のように清水南高等学校の施設を借りて休息させて戴いたりしたことは、その後の地域の人や高校との繋がりとなった。

こうした教育活動は、子供の地域での様々な生活を想像し、実際の生活づくりを想起させたと考える。ここで反省点がある。子供を地域に知ってもらう機会が増え、地域の資源に子供が積極的に関わっていくという意味では、よかったと言えるが、その力を一緒に支え、成長に手を貸してもらえる支援活動として十分ではなかったと、思うところがある。

▼ここで、もう一度、子供の能力の伸長と実現（できることと、していることとは違う）について考えてみよう。2001年にWHO総会で採択されたICFの考え方を教育に使った支援活動である。人が何かを成し遂げるには、誰かの支援が必要である。物事の実現に必要な力が100%に達せず、あと20%足りないとすれば、今ある80%に環境因子（物的支援・人的支援・法的支援）を加えれば、実現に必要な力が100%となる。という考え方である。

私が、本校に在職していた時のことを一つ紹介したい。ピアノを上手に弾く子がいたが、地域社会で継続する音楽活動には難しさがあった……。そんな時、清水南高等学校の音楽科の生徒さんたち（確か5名くらい）が、一緒にバンドを組んでボリュームある継続的な活動ができる環境提供を申入れてくれ、その子の活動は豊かに支えられた。

このように生きていくうえでの協力者・その支援（ICFの人的支援）が得られていけば、子どもの地域生活の幅が大きく広がり、継続可能な取組みとなっていくのと思う。つまり、生活像の創造と個別の教育支援計画には、地域の支援（輝き）が必要なのである。▼こうしたことから、清水特別支援学校の全ての教育活動に関わる内容をこの紙面「輝きブック」に綴られていけば、それは正しく、教育支援計画の実践そのものであり、研究紀要でもある。子供と支援者との繋がり方やその工夫は、正に子供・保護者・地域の人たちの様々な輝きであろう。今後の本校の輝きを期待する。

【コラム①】清水特別支援学校 校歌誕生

校歌作成委員会を立ち上げて、清水特別支援学校の校歌が完成しました。作詞・作曲は「チーム清水特支」です。

清水特別支援学校 校歌

作詞・作曲 チーム清水特支

1 かがやく みどりの まつのはら あかるい えがおで つなぐ ちからを
 2 けだかく そびえる ふじのやま ゆたかに のびゆく こころ みらいに

10 あわせて そだてよう なかまと ともに らららあ おいあ おい うみに
 おかって いっぱずつ なかまと ともに らららあ おいあ おい そらに

20 しろい ほを はって われら しみずの ここぎだそう
 おおきく つばさを ひろげ われら しみずの ここはばたこう

静岡県立清水特別支援学校

校歌

作詞・作曲
 チーム清水特支

一 輝く緑の松の原

明るい笑顔でつなぐ

力を合わせて育てよう 仲間とともに

ららら 青い 青い海に 白い 帆をはって

われら清水の人 漕ぎだそう

二 気高くそびえる 富士の山

豊かに伸びゆく心

未来に向かって 一歩ずつ 仲間とともに

ららら 青い 青い空に 大きく翼を広げ

われら清水の人 羽ばたこう

(2) 小岱 和代 (第2代校長)

「地域を教室に一人一人のキャリア発達を促す教育の実践」が、開校2人目の校長として着任した当時、私が実感した清水特支の特色でした。初代校長太田実氏の構想の元、準備委員が練り上げた地域と共に歩むという学校経営方針、教育課程は、他の特別支援学校の一步先をいく新しさがありました。

太田校長は、学校づくりに起業家のような経営の発想を取り入れ、時代のニーズに合わせた目標、アイデア、教育内容を打ち出しました。既存の学校運営に馴染んでいる教員には、それを具体化することにご苦勞もあつたことと思います。しかし、私が着任した開校4年目(2013年)には、既に地域とのつながりを基盤にした作業学習、生活単元学習などの教育活動は軌道に乗っていました。子どもたちは、地域の皆様に協力、応援をいただき、地域で役に立ち喜ばれる体験によって自己有用感を味わい、自信を高めていました。教職員も同じです。勢いのある学校でやりがいを感じながら、地域における地盤を固めてくださいました。

私は、初代校長のように時代を先駆けるアイデアを持ち合わせなかったので、自分の得意分野である研究によって貢献しようと考えました。そこで、冒頭のテーマで教育活動をまとめ、静岡教弘教育実践論文に応募したところ、学校部門の最優秀賞をいただきました。特別支援学校が、全校種の中からこの賞をいただくのは初めてのことでした。講評では「地域を学びの場ととらえ、環境設定・構成や授業づくりに優れたものであり、コミュニティ・スクールへの発展の萌芽性をもっている。特別支援学校のみならず校種を問わず参考になる実践である。」と評価をいただきました。2年間の短い仕事でしたが、これで自分の役割は果たせたと達成感を持って清水を後にしました。

その後も清水特支は地域に生まれ、発展充実を遂げています。富士特支校長時代、それを認識する出来事がありました。人事異動の季節になると、東部地区に住まいながら清水特支を希望する教員が後を絶たないのです。教員から見ても、魅力ある学校づくりが光っているのでしょう。

年を重ねて記憶も朧気で、具体的なエピソードが出てこないことをお許しください。清水特別支援学校に関わる皆様の Well-being の向上を願っています。



2014年、コミュニティ・スクールに転換しようと、地域の皆様と作戦会議。(設置が努力義務とされたのは2017年)

作業学習ガラス工芸で生徒が作ってくれたペンダントは、私の勝負アクセ。



(3) 坪井 康人 (第3代校長)

清水港から地球深部探査船「ちきゅう」が日本の未来をかけて沖の鳥島にむけ出港するというのがニュースで伝えられました。このことを聞いて、清水特別支援学校の校章のことが思い浮かびました。この校章のデザインが、児童生徒を乗せた家族、地域、学校の3艘の船が輪となって、お互いを支え合い、今風を受け、未来に向けて漕ぎ出す様子を表していることからです。当時、このことに感銘を受け、清水港から大海に漕ぎ出していく船をイメージしたキャラクターを是非作成したいと考え、校内で募集し決定したことを懐かしく思います。

私が赴任したのは今から10年程前、清水特別支援学校は開校から5年目というまさに未来に漕ぎ出そうとする意欲あふれる学校でした。「流行と不易」と言われますが、子どもたちへの愛情という不易の部分を大切にし、授業には新しく創意工夫した試みが行われていました。行事等では、頑張って歩き通した小学部の日本平への遠足、大雨で心配した中学部の宿泊学習、高等部の沖縄への修学旅行でたくましくなって帰ってきた姿などが思い出されます。今も学校のホームページやインスタグラムでの児童生徒の輝く目、笑顔が溢れる姿などを拝見させていただくと魅力ある教育活動が続けられているのだなと強く感じました。「輝く」という言葉は自ら光り輝くということや周りからの光を浴びて輝くと言う意味でも捉えられます。子どもたちが自ら光ることが大切なのは言うまでもないですが、周りからのサポートを受けて輝くことも大切であると考えます。ここ2、3年私は自治会の仕事をするすることがあり、改めて地域活動の大切さを感じました。「ありがとう」の反対の言葉は「あたりまえ」と言われます。普段当たり前のように生活しているようで、そこには多くの方の支えがあります。有り難いことです。今も校外学習、作業学習、給食、登下校、放課後支援、進路など清水地域の皆様から様々な場面で支えてくださっていることに感謝を申し上げたいと思います。

静岡北養護学校清水分校として開校したのが平成13年、今年が平成で言うと38年となります。この25年の歴史を糧に子どもたちの輝き、指導する教員の輝き、家庭で支える喜びの輝き、地域の輪が放つ輝きがこれからもより一層増していきますよう心より応援いたしております。

(4) 鰐口 昌安 (第4代校長)

「ともにあゆみ ともにかがやく」

「ともにあゆみ ともにかがやく」～児童生徒一人ひとりが夢をもって可能性を伸ばし、地域で自分らしく生きることをみんなで支援する～ことを掲げて平成22年4月に開校した本校の4代目の校長として平成29年4月に着任しました。

「ともにあゆみ ともにかがやく」という言葉は、子どもたちだけに向けられたものではありません。私は、『子どもたちに関わるすべての人と』という言葉の前に付け教職員、保護者、地域の方々など子どもたちに関わるすべての人が同じ時間を共有し、同じ方向を見つめながらともに悩み、喜び、学びながらともに成長し輝いていくことの大切さを伝えてきました。

校長として在職した日々を振り返ると、平成から令和へと時代が移り、本校も開校10年を迎えました。10周年の記念行事が無事終了し退職まで残り2か月となったところで新型コロナウイルスの流行による休校措置という大きく揺れ動いた3年間でした。

そんな中でも子どもたちと向き合い、わずかな変化に気づき一緒に喜び合い、時に立ち止まりながら次の一步を懸命に探そうと日々奮闘する先生方の姿には本当に救われました。クラス、学年、学部さらには学校全体が1つのチームとして子どもたちを支えているように感じました。まさに「one team」「one for all、all for one」です。教員生活最後の3年間をこの先生方と出会い、そして同じ時間を過ごせたことは私の人生の宝物になりました。あわせて、PTA役員をはじめ、保護者の皆様、そして本校に携わっていただいた地域の皆様方にもたくさんの知恵と力をお借りしながら私自身も成長させていただきました。

子どもたちには事あるごとに「元気」「笑顔」「挨拶」のあふれる素敵な学校にしようと伝えてきました。在職中に私が何よりも心を動かされたのは、やはり子どもたちが見せてくれる一瞬一瞬の輝きであり、日々成長している姿です。言葉で思いを伝えるのが難しい子、思うように体を動かすのが苦手な子、いつも不安な気持ちでいっぱいの子、何かしらの課題や問題を抱えながらも、毎日元気いっぱいに登校し、とびきりの笑顔で挨拶し、友だちや先生と確かな歩みを重ねていました。その姿は、私にも元気と笑顔、そして幸せをたくさん分けてくれました。

私を、本校を支えてくださった先生方、保護者、地域の方々、そして何よりも元気で笑顔の子どもたち、本当にありがとうございました。

退職し、学校を離れた今、本校の卒業生たちのいる会社でとともに働いています。日々頑張っている卒業生の笑顔や真剣なまなざし、前向きに取り組む姿を見ていると、本校の子どもたち一人ひとりが、関わるすべての人とともにあゆみ、ともにかがやいて一歩ずつ成長していくことを心から願っています。

(5) 成岡 裕司 (第5代校長)

『良さを伸ばし、みんなで考え、挑戦したこと』

素晴らしい子どもたちや先生方、保護者の皆さんや地域の皆さんとの生活、年齢や役割も忘れ、体いっぱい体当たりで過ごした三年間。皆さんとの様々なふれあいの場面がこと細かく思い出されます。

一年目。始業式と入学式が終わり、一年のスタートを切った翌日からコロナ感染防止により、学校は休校。今後の見通しはなく、誰もが落ち込んでいる状況の中、「今できることは何か」を副校長・教頭先生と考えました。閃いたのは、映像配信。今では当たり前のSNS配信です。一年生に入学した子どもと保護者、新しい学年とクラスになった子どもと保護者、四月から異動した教職員と新しい学部、学年になった教職員。皆が不安いっぱいの中で諸先輩が築かれてきた学校の良さと教職員の皆さんの良さを発揮してもらおうと考えました。パソコン機器に詳しいI先生に自分の構想・想いを伝えると即座に『できますよ!!簡単ですよ!!』の返事。「流石だ。清水特凄い!!」と思いました。早々に情報管理の先生方が集まり、機器の準備と進め方の段取り。事務長さんからも「こんな風にしたら、どうですか」の提案。各学年の先生方は、「子どもたちに何を伝えよう、何を配信しよう」と考え、校歌を歌ったり、ダンスを考えたりと不安や落ち込みの表情はなく、誰もが前向きで明るい表情となっていました。流石、清水特の先生方は、スペシャリスト集団でした。その後、様々な形を取りながら、学校に子どもたちの声が戻ってきましたが、コロナ禍という状況は変わりません。昨年度まで行ってきたことや年度当初に計画したことができない状況は続きました。また、学校にもどかしさと不安の風が吹き始めようとしていました。今後のことを「校長一人が考えるよりも、みんなで考える方が様々なアイデアが出てくる」と考え、先生方に話しました。「様々な活動や行事を中止にはしません。どうしたらできるかを皆さんで考えましょう。きっと良いアイデアが見つかるはずです」と。先生方の表情は見る見るうちに変わり「こうしたらできるんじゃない。こっちの方がいいんじゃない」と笑顔で話し合っている姿が数多く見られました。先生方の不安は、これから先どうなるのか、先が見えないことへのものでした。中止にしないとの話に先を見出し、前進してくれていました。それは今まであまり考えず、やるべきものとして行っていた活動や行事に想いや魂が入れられ、以前とは形は違いますが、意味ある充実した活動や行事へと変化・成長していました。やっぱり清水特の先生方は、スペシャリスト集団でした。

児童生徒・職員が「行きたい」、保護者が「行かせたい」、地域の方が「あって良かった」と思う学校。清水特別支援学校は、そう思える学校・職場です。先輩方の礎を大切に、「清水特らしさ」を益々発揮して頂けることを期待します。

3 学校運営協議委員の言葉（※敬称略）

（1）青木 清之（PTA会長）

「Expect」

清水特別支援学校の皆様、日頃より子どもたち一人ひとりの個性や成長に寄り添い、温かく丁寧なご指導をいただき PTA を代表して感謝申し上げます。先生方をはじめ、学校関係者の皆様が日々重ねておられるご尽力により、子どもたちは安心して学び、自分らしさを大切にしながら少しずつ成長しています。その姿は、私たち保護者にとって大きな喜びであり、励みでもあります。

学校運営協議会を通じ私自身が思うのは、「前進」には勇気が必要ですが「後退」は勇気に加え覚悟も必要だということです。「後退」は一見恥ずかしい選択と思われがちですが、一步下がって見ると案外視界が広がるものです。

子どもたちが見えない壁にぶつかり、その壁を乗り越える手立てを見失った時、ダサイと思われようと覚悟をもって一步下がって見るというのは有効な手段かと思えます。これからも、子どもたちが笑顔で過ごし、それぞれの可能性を広げていける学びの場として、本校のますますの発展を期待しております。

私たち PTA といたしても、学校との協力のもと、子どもたちのより良い環境づくりに努めてまいります。

（2）天野 院明（秋葉山本坊峰本院 住職）

輝きブックに寄せて

「中道を生きる」人は極端を捨てて中道を生きていくべきであると仏法は解いています。弦楽器の弦を締めればぷつりと切れてしまい、緩めれば音は鳴らず、適度な張りがあればこそいい音を奏でるものです。良い生き方をする為には極端を捨てて無理のない生活をする。正に中道を生きるのが良い生き方でしょう。学校の生活も、自宅の生活極端であってはならないのではないのでしょうか。これは「いい加減」と訳するのが一番最適な言葉です。誤解を招きやすい言葉なので注釈し見るに、風呂に入った時の快適な温度は人により皆違うのがその良い例であります。その人にとって一番の心地の良い温度こそ「いい加減」なのです。子供は皆十人十色であり縁起により因と縁から成り立っています。

「因」を直接の原因とし「縁」を間接の原因と説明するのであれば、植物の種は「因」であり、それが発芽する為には土や水、気温などの「縁」の条件が整わなければならないのです。「縁」が熟して「因」は「果」を結ぶわけである。私たちは、つい「縁」を見落として「因」さえあれば「果」を手にとれると思いがちであります。毎日をゆったりと楽しく生活し、人に勝つことだけを考えるのではなく、お互いに助け合って生きて行くことこそ中道の教えです。思うがままにならない事を、思うがままにしようとするから苦しみそして悩むのです。物事の真実を明らかに受けとめてどうぞ苦にならない学生生活を送ってください。

(3) 井上 靖之 (飯田地区社会福祉協議会 企画委員長)

私が、清水特別支援学校との係りは、本校の準備校が清水小学校内に開設された時でした。当時、私は清水総合運動場に勤務しておりました。

支援学校の生徒さんが、総合運動場グラウンドを使用したいと申し入れがあり、大会等がない時は、自由に使用してもらいました。先生からお礼の代わりに何かお手伝いできませんか、とのことで、グラウンド整備をしていただきました。将来本校と係りができるなどとは思いつかないことでした。退職後、飯田地区の福祉ボランティアに係ることになりました。今から14年ほど前、清水特別支援学校から「地域と交流したい」との申し入れがありました。学校に出向き、担当の川辺先生と打合せをいたしました。双方とも初めての取り組みで、どのように進めたのか記憶はありませんが、毎月1回、昼休みに、地域住民3名が訪問して、遊び交流会をすると決まりました。学校が地域住民を気楽に受け入れる体制を整えてくれたこと、先生方も理解して下さったことが、10年以上続いた証だと思っております。

現在、昼休み遊びボランティア以外に、花壇整備・手品・正月遊び・踊り・三味線体験等、年間100名が訪問交流しております。一昨年からは、地域のまつり「飯田まつり」にも参加、地区との交流が広がり、現在では、飯田地区4校では、地域との関りが一番多い学校になりました。これからも、本校との係りを大切にして交流を進めていきたいと思っております。

(4) 大島 章嗣 (日軽金オーリス株式会社 事業部事業部長)

このたびは「輝きブック」の発刊、心よりお祝い申し上げます。私は地域企業の立場から学校運営協議会に関わり、2011年の冬に高等部との交流が始まって以来、卒業生を採用し共に働いてきました。入社後の成長ぶりに、在学中を知る先生方が感動の言葉を寄せられる場面に幾度も立ち会いました。その背景には、子どもたちの良さを見つけ、目的を明確にして学びを積み重ねる御校の力と、日々支え続けるご家庭の力があると確信しています。学校の教室や廊下の清潔さ、あいさつや思いやりが行き交う雰囲気、表現や発表の機会の豊かさは、地域から拝見しても大きな魅力です。一方で、連絡や情報の伝え方をより分かりやすく、早く、誰にでも届きやすい形に整えることは、子どもたちの挑戦の幅をさらに広げる鍵になると感じます。私たちは、職場実習や地域の清掃活動などを通じて、子どもたちが「頼られる存在」であることを地域に伝え、活躍の場を広げていきたい。そして、清水特別支援学校が「開かれた学校」として、地域に愛され、地域と学び合う姿をこれからも共に育んでいきたいと願っています。子どもたちは、社会で力を発揮する可能性に満ちています。企業も、地域も、学校も、保護者も、その可能性を信じ合い、手を取り合って歩みましょう。学校創立からの歩みに深く敬意を表し、今後も、御校と地域が一層輝くことを心から祈念いたします。

(5) 小倉 淳司 (静岡市清水区役所 地域総務課長)

『共創』

特別支援学校の皆様、この度は、「輝きブック」刊行おめでとうございます。

私は清水区役所地域総務課に従事していますが、私の役割は、区民の皆様とともに、地域に愛着と誇りをもち、幸福な気持ちで暮らせるまちづくりを推進することです。私は学校運営協議会を通して、貴校のグランドデザイン、学校経営計画、教育目標「ともにあゆみ ともにかがやく」など、知れば知るほど、教育と行政と違いはあれども、目指していることは一緒なのではないかと思っております。それは「共創」です。貴校の取り組みから「共創」について、気づかされることが多く、私自身が勉強させていただいております。

令和7年度は、清水区内の高校生が集まり地域課題等を一緒に考え、自らが地域のために行動していく「清水区未来創造トーク」に貴校も参加され、地元プロ野球球団「くふうハヤテ」の応援プロジェクト「勝手に応援団」は、まさに輝きを感じることができました。また、令和7年12月に開催した「しみずワクワクまつり」では、ブースを初出展されました。当日は、雨からのスタートでしたが、徐々に天候が回復して、私が思っている貴校のイメージである冬の穏やかな輝く日となりイベントも大成功に終わりました。

最後に、いつも精一杯で頑張る貴校の子ども達、先生方、今後も一緒に「共創」していきましょう。

(6) 佐野 可代子 (NPOたからじま 理事長)

清水特別支援学校（以下、清特）の【強み＝輝き】は何ととっても「地域と協働して取り組む教育活動の実践」ではないでしょうか。学校内にとどまらず地域の人材や資源を生かしたいろいろな学びの場づくりは、清特ができる前、分校の時代から行われており、今は更にバージョンアップして清特の特色になっていると思います。実際、地元の産品や生産者の方々とコラボして製品化・販売にチャレンジしている作業学習、ボランティア活動から生まれた多様な人たちとの交流とその関わりを通して広がった社会参加の場、そして、それが結果的にみんなの役に立つとか喜ばれることにつながる、そんな学習活動を体験することで、子どもたちそれぞれの肯定感や生きる力が育まれているように感じます。また、教育の他に清特の強みは、生活面で様々な支援を必要とする児童生徒や家庭のニーズを把握して、適切な支援へ「つなぐ場」としての役割を担い、地域の特別支援学校として相談支援機関とのつながりができていることです。昨今、障害のある人たちの存在が地域を豊かにしていく主体となる取り組みが、全国各地で見られます。これからも「清特」が魅力的な活動を楽しく発信しながら輝き続けますよう応援しています。

(7) 望月 導章 (株式会社パタライ・エフェクト 就労継続支援B型キャンバス営業部長)

輝きブックは、学校での子どもたちの素晴らしい取り組みを、広く地域に発信して、皆で認め喜び合おうとの趣旨で、初代太田校長の元、企画されたと伺っています。

学校の様子を見る機会は少ないですが、いつも元気いっぱい、明るい笑顔が広がっています。この営みを、家庭や地域の多くの方に発信していくことは、とても意義のあること。学校の存在そのものが、地域の輝きとなることが意図されていたのだろうと思います。その輝きブックが、時を経て、片岡校長の元、新たに作られる。とてもうれしいです。

私は今年、5月に高等部の「三保の松葉かき」、6月に中学部の「体育フェス」、11月には高等部の「スポーツ大会」を写真撮影、さらに1月には全校写真を撮らせていただきました。生徒の皆さんの、ひたむきな頑張り、それを支える先生方の機敏な動き、応援する保護者の皆さんの笑顔。

夢中になってシャッターを押すと、毎回数千枚のカットに。セレクトに一苦労でした。写真を絞り込んでいくと、撮影時には気が付かなかった細かな点に目が行きます。生徒の皆さんの真剣な眼差し、友達の動きを助けようとするちょっとした手の動き、見守る先生方や保護者のみなさんの優しい眼差し。こう撮れば良かったと反省ばかりですが、楽しくて気が付くと深夜になっていることも…。

これからも学校中に輝きが溢れ、学校の存在が地域の誇りとなることを祈念しています。大好きな写真撮影がそのお手伝いになれば、こんなにうれしいことはありません。

【コラム②】 コミュニティスクール (学校運営協議会)

＜第1回/R7.6.23＞外部委員の皆様が来校され校内参観、学校運営説明を実施



＜第2回/R7.9.12＞防災教育推進のための連絡会議を兼ねて、地域の方や近隣校等7名の皆様にも参加いただき実施



＜第3回/R7.12.17＞清水とともにをコンセプトとした地域共同学習について、更なる充実を目指して意見交換等を実施



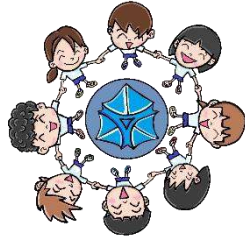
＜第4回/R8.2.13＞委員の皆様のご意見をいただき次年度学校経営計画案説明を実施



4 家庭での輝き

(1) 小学部

<小1 家庭での輝き>



『初めての運動会』

- ラジオ体操、自分なりに頑張っているところが見られて良かったです。まっすぐゴールに向かって走っているところも成長を感じました。
- とっても楽しい運動会でした。たくさん練習したんだろうな、成長したなぁと嬉しくなりました。
- 待つことが嫌いなAが、ちゃんとみんなの輪の中で先輩たちを応援する姿に感激です。ラジオ体操もかけっこもスーパーかわいかったです。
- 運動会は、保育園の時は泣いてしまったりして上手に参加できない時もあったので、落ち着いていてびっくりでした。
- Bの走る姿、体操している姿、大きな声で歌っている姿、どれも落ち着いていて私たちの姿を見てもニコニコと笑うだけで応援席に座っていた姿に私は感激しました。
- 運動会、とても楽しませていただきありがとうございました。学校に入って約2か月、みんなの輪にいることや、ほかの学年の競技中は座って観戦することなど、成長を見ることができて嬉しかったです。
- 競技中はもちろん、競技以外でもとても楽しそうに上級生を見たり、お友達と談笑したり、普段見られない姿が見られてとてもよかったです。
- たくさんの観客の中、あんなにテレテレするCの姿を見てびっくりしました。恥ずかしがる感情があることに私は感動しました。今まで以上にとてもとてもCがかわいらしく天使に思えました。恥ずかしがりながらも、走れないけど、先生におしりをポン！と触れられながら応援されながら頑張っていましたね。これからの成長記録がたくさん増えることが楽しみです。
- 去年までの姿とは違い、落ち着いてみんなと参加できていて感動しました。子供たちの頑張る姿、楽しむ姿を見てこちらも楽しかったです♪
- しっかりコーンまで走っていて驚きました。終始笑顔で楽しそうにしている良かったです。
- 素敵な運動会をありがとうございました。いつもと違う雰囲気です。少し緊張しちゃうかなと思いきや、とびきりの笑顔で楽しめていて、見ている私たちも笑顔になってしまいました(≧▽≦)『よういどん』もとても張り切っていて、走り終えた後、「優勝したの？」と思うほど一人ガッツポーズをみんなにアピールをしていたので笑ってしまいました。去年までは、一緒に手をつないで競技に参加していましたが、今年は一人で堂々とやり抜く姿に感激しました。

<小2 家庭での輝き>



『かがやき参観会～初めての体育館発表～』

- とても可愛くてニコニコして見ることができました。跳び箱も跳べるようになっていたりダンスや歌も正々堂々と発表したりしていて、一生懸命練習したことが伝わってきました。トロールをやっているところでは、友達と協力している姿が見られ成長を感じました。
- 友達とみんなでトロールに立ち向かっている場面が印象的で、他の人と力を合わせることの大切さを学んでくれたらうれしいです。
- みんなで楽しく歌ったり体を動かしたりしている姿を見ることができて、成長を感じました。
- 家族が参観していたため、恥ずかしくて顔を隠していましたが、最後までやり切ることができました。ほめられると、照れくさいのか「言わないで～」と言っていましたがとても楽しかったようです。
- 当日は欠席のお友達もいて残念でしたが、決められたことを友達と一緒にクリアしてすごいなあと思いました。終始につこにこで、ボール投げもとびきり上手でびっくりしました。本当に良い発表でした。



『普段の生活から』

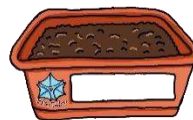
- 衝動的な行動が多かったですが、クレーンゲームを通して、どうやったら取れるのか考えて行動できるようになりました。
- 「疲れちゃったから嫌だ。」「今日は、ママと一緒にいいんだ。」など自分の体調や気持ちを伝えられるようになってきました。
- 箸をもって食事できるようになってきました。集中して持てる時間が長くなってきました。
- 弟が泣いていると、一緒に頭を下げて謝ったりおしゃぶりををもって来てくれたりするようになりました。
- その場に合った挨拶ができるようになりました。例：手洗い後、次の人に「どうぞ。」道を譲ってもらい「ありがとう。」
- 学校で収穫してきたプチトマトを「見て見て～」と見せてくれました。ママと一緒に料理をして食べる。と言っていましたが最終的には「僕は食べません。」と言って食べませんでした。けれども、今まで興味関心のなかったことにも興味をもち、それを伝えようとしてくれてうれしかったです。



<小3 家庭での輝き>

【食育】

～畑で取れた野菜を持ち帰って～



○「トマト、食べない。いらぬ。絶対いや！！」と言っていたのですが、「でも先生からのメッセージに“感想もお聞かせいただけたら嬉しいです。”って書いてあるよ。どうだったか教えてあげないと。」と言うと「…ちょっと食べる。」とのこと。好きなカップ焼きそばに小さく切ったものを混ぜて食べました。普段、家では生野菜をどう説得しても絶対に食べないので、本人の中で学校を思い出し、頑張ってみようという気持ちになったこと、成長だなあと感じました。

○なすも普段家では「いらぬ。」と言うのですが、学校での野菜は特別なようです。麻婆茄子にすることに決め、なすを洗って切ることを担当しました。「いつもの麻婆豆腐と同じ味だよ。」と伝えるとモリモリ食べ、完食！途中何度も「おいしい～」と伝えてくれました。（今まで私が食べてみよう伝えてもいや！と拒否することが多く、その年月が長かったため）食べてくれること自体も嬉しいですが、私からの「食べてみよう！」の提案に応じてくれるようになったこと、また成長を感じました。食べた後、「明日はこれとこれを食べる！」「小さく切って！」と共に持ち帰ったトマトとピーマンを、自分から「食べる。」と伝えてくれました。



～給食での取り組みから～

○夕食の時にあえて玉ねぎを1つ入れてみたところ避けるように食べていましたが、「玉ねぎを食べられたらお肉食べよう。」と言うと口に入れてくれました。給食で色々挑戦していただいているおかげで抵抗なく食べられました！これからもいろいろな食材を試してみます！

【輝き参観会】

～校外学習で行った楽しい思い出から「すみれランド」に家族を招待しました～



○踊りも自分の役割もしっかり頑張っていて成長を感じました！

○緊張しつつも、自分の役割をやり遂げたこと、とても頑張ったなあ、と感じました。

○どの場面でもずっと楽しそうに活動している姿を見ることができてとても嬉しかったです。学校がとても楽しいんだなと伝わってきました。



<小4 家庭でのかがやき>

運動会での成長

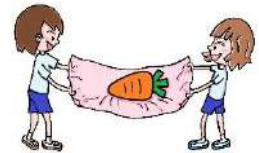
『徒競走』（2年時）

- スタートは背中を押してもらったけど、最後まで走れてよかったです。いつも人がいる本番はできなくなってしまうのでうれしかったです。
- 初めての運動会でしたが、楽しく参加できてよかったです。メダルを見て、「青」とコーンを指して教えてくれました。自分の走るコースのこともよくわかっておりこうです。
- 恥ずかしがって1人では走れなかったけど、先生と一緒にちゃんと完走できてうれしかったです。立派な姿が見れて感動でした。すごく頑張ったと思います。
- 徒競走はまっすぐニコニコで走る姿、とっても素敵でした。また一つ思い出ができました。



『ペア競技』（3年時）

- 自分のところに来てしまったときは驚きましたが、上手にできたと思います。頑張りましたね！
- 競技の内容もかわいくて楽しく見させてもらいました。一緒にやってくれた4年生が怒ることもなくずっと待っていてくれてさすがと思いました。
- 運動会はいつもとは違い、人がたくさんいる状況でしたので難しいかなと思っていましたが、しっかりできていたので本当に驚きました。
- ペアのお兄さんが優しくかったです。いつも通りできて偉かったです。楽しそうに参加できていたのでうれしくなりました。
- 楽しそうに参加している姿が見られてよかったです。ペアの4年生にリードしてもらってありがたかったです。



『ペア競技』（4年時）

- 3, 4年生の競技は負けてしまいましたが、5, 6年生が勝った時に喜んでいたので、チーム分けを理解してますね。
- 1年でとても成長しました。3年生と協力してマイペースですが、上手にパフェの材料を運んでいました。
- 本人はもちろん、みんなの成長や頑張りが感じられる素敵な運動会でした。帰宅後「楽しかった。」と言っていました。
- とっても素敵な姿が見られて感動しました！！友達を気遣う余裕もあってあの場でよくできたなど成長を感じました。
- 頑張っている姿を見られて感動でした。終わった後泣いているところを見て悔しかったのかとちょっぴりもらい泣きしそうになりました。たくさんの方がいる中で最後まできちんとやって成長を感じました。



<小5 家庭での輝き>

【焼津校外宿泊学習を終えて】



○焼津宿泊おつかれさまでした。

学校からの帰り道、車内で大泣き、大パニックでした。家族がいない場所でのお泊り。当日の朝は表情が硬く、口数も少なく不安な気持ちが伝わってきて、私までソワソワしてしまいました。(;^_^A 夜寝る前に少し泣いてしまったけど、お友達や先生方のおかげで眠ることができたと思います。帰宅後、夕ご飯を食べたら気持ちが落ち着いて「みんなでお風呂に入ったんだよ!」「だし教室やはんぺんづくりをみんなでしたんだよ!」「一人でお泊りできた🍀」といろいろお話してくれました。もう一度焼津にみんなで泊まりたいそうです。自信がついたんですね。

木曜日に予定している検査入院も行きたくないと言っていたのに、自分のリュックに荷物を入れて「お泊りに行きたい!」と言っていました。びっくりです。

来年の修学旅行までその気持ちを忘れないでほしいなと思います。本当にお疲れさまでした。



○宿泊学習からとてもいい顔で帰ってきました!

楽しかったこと、先生に褒められたこと、自分なりに頑張ったこと、すべて自信につながったと思います。先生方のご支援のおかげです。ありがとうございました。この学習を機会に“自分ひとりでできること”を増やしていこうと思います。我々親にとっても意識を高める良い機会になりました。

【みんなで種から育てた枝豆を収穫し、家に持ち帰りました】

○枝豆!すごいですね!!

うちの子が帰ってくるなり枝豆を私のところへ持って来てくれました。

○見事な枝豆ありがとうございました!

「あ(が)っこう!まめ!」と言っていました。

枝豆はここ半年くらいで食べられるようになった食材です!



○家族みんなでおいしくいただきました。実がぷっくりとしていて、とてもよくできているとお兄ちゃんに言われ、とてもよろこんでいました。

○「えだまめ とったよ!」と嬉しそうに渡してくれたので、夕食に食べようかと伝えると「だめー。」と言われてしまいました(笑)。明日こっそり茹でてみんなで食べようと思います。

<小6 家庭での輝き>

【運動会を終えて】

○緊張も感じられましたが、何より全てを楽しんでいる様子が見られ、小学校最後の運動会を良い形で終わられたと思います。ありがとうございました。負けたときに、泣き叫ぶのではなく、静かに悔し涙を流している姿に、心の成長を感じただけでなく、「更に上を目指そう」という向上心が感じられ、彼女のこれからの成長に親も協力して、親子でがんばっていこうという決意を新たにしました。



○個人走ではない種目はどうしても協力が必要不可欠になるため、どうしようもないとはわかっている、悔しいものは悔しいと思います。それをバネに一層飛躍できる子になれたらいいなと思います。先生方も励ましや慰め等寄り添っていただきありがとうございました。

○運動会、がんばってくれてよかったです。ちゃんとペアさんを待って自分から走っててびっくりしました。ありがとうございました。すごい成長したなーと思いました。

○運動会、自分の役割をしっかりとやれていて成長を感じました。競技はとても力強く走るのびびっくりしました。全力で頑張る姿が見られてとてもうれしかったです。勝負にこだわり、声掛けが難しく感じましたが、勝つためにはどうすればいいかを一緒に考えたりして本番に挑みました。親子で一緒に取り組んだ運動会になり、いい思い出になりました。



○運動会、2日目ということもあり、疲れと緊張の中よくがんばったと思います。楽しかったといっていました。

○小学部最後の運動会ということで、親の私がドキドキしてしまいましたが、そんな心配もすつとぶくらい6年生の皆の「お兄さん、お姉さんらしさがひしひしと伝わるひとときでした。



かっこよく式の進行をする姿、ペアの5年生をリードする姿、離脱せず席で待つ姿、テキパキ動く姿…さすが6年生！リーダー！と感動するポイントが多々ありました。

息子も集団行動が苦手で色々と入学当初から多々壁にぶち当たって毎回私も不安な状態で参観してましたが、年々集団行動に対する視野？が広がってきているのがわかり、今回もペアの子と無事完走する事が出来てまた本人の中での成功体験がつまれて次につながるといいなと思いました。

○小学部最後の運動会…なかよし委員会だったこともあり、張り切っていました。「えいえいオー」をやるんだと…。赤組のリーダーとしてやった後、友達とハイタッチしている姿に感動しました。「2人でやるぜー」という感じ…。「オレやってます、がんばってます」のアピールしながらの競技…。心があつくなりました。



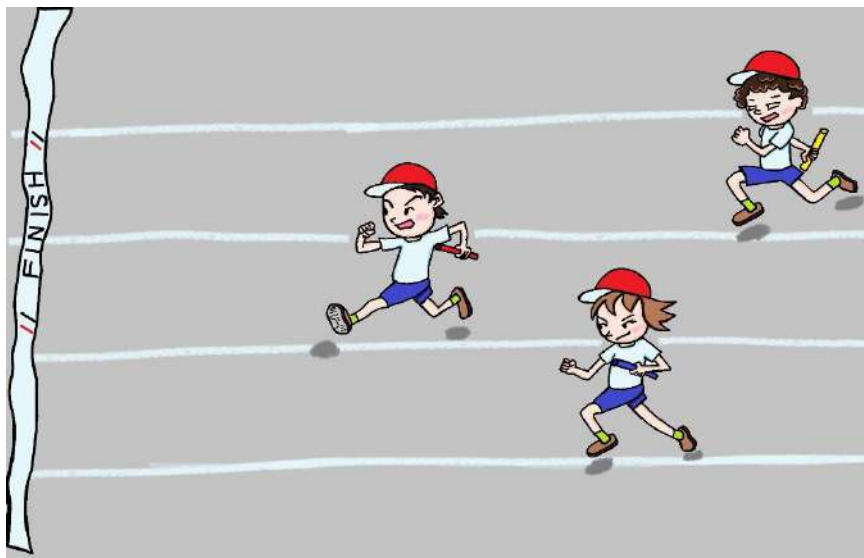
○赤組、白組みんな頑張っていました。負けて悔しくて泣いている子もいましたが、かっ

こよかったです。ペアの子を待って率先して走っている姿には感動しました。

○運動会ありがとうございました。1年生のころからいろいろと思い出しました。成長をたくさん感じる事ができてうれしかったです。走るのもとっても上手になっていて、6年生らしさもとっても出ていてよかったです。

○毎年いろいろな事ができるようになる姿が見られる場所でもあるので毎回楽しみです。

○昨年以上に熱気や勇気、笑顔のあふれた素晴らしい運動会だったと思います。自分の役割に真摯に取り組む姿や苦手な場面でも逃げずに立ち向かう表情、勝って友達と喜びを分かち合うはじける笑顔や負けて悔しがると大粒の涙など子どもたちのたくさんの頑張りや成長の証を目の当たりにすることができてとても感動しました。



(2) 中学部

家庭での様子

昨日の朝、ポテトチップス（お菓子）が食べたいと私の所へ持ってきました。お菓子の袋がかたいので、「ハサミがほしい」と言ったら…椅子から立ち上がり、エプロンを外し、キッチンの引き出しからキッチンバサミを持って来てくれました。もうビックリと感動で…涙が出ました。言葉だけで通じた事。本当に嬉しかった。私に手渡す時も刃先を自分に向けた状態で柄を私に差し出してきました。学校で教えていただいているんだなと思いました。障害があってもなくても、必ず成長する！！でも、次から次へ問題が起きてしまい自分に自信がなくなってしまう…逃げ出したくなる。逃げ出したくなる自分に対して自己嫌悪になり、苦しい事もあります。小さい喜びが何倍も幸せに変わるのだと気づかされます。今日も元気に過ごせますように…。今日もよろしくをお願いします。（連絡ノートより）



家の中で一番敏感に色々な変化に気づいてくれます(^-^)
観察力はすごいです(^-^)

休み中、歩いて学校まで行きました！そのまま清水駅へ向かい、バスに乗って帰宅。自主登校の練習をしました(^-^)
(連絡ノートより)



昨日は廃材ロボット作りワークショップへ参加してみました。

作業や工作に慣れているからか、あまり抵抗もなく、こうしたい！これを作りたい！等、積極性も見られてよかったです。＼('ω')／



先生も書いてくださったように、色んな場に出て、経験を重ねていく中で苦手なことも、少しドキドキしてしまうことも、出来る、大丈夫の自信になることを期待します。周りの関わりが重要なんですよ…。親も鍛錬の日々です。（連絡ノートより）

作業製品発表会

オープニングセレモニーでいるとは思わずびっくりしました。ゆっくりでしたがしっかり話していてびっくりしました。

発表、実演、販売、どの班もお勧めを教えてください、実演では「こうやってるんだよ」って気持ちがいっぱい伝わってきて、すごく感動しました。その子その子に合わせたやり方等、先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。（連絡ノートより）



清水食べ物発表会

ピザ作り、みんな一生懸命取り組んでいて、とても頑張っていました。その姿を見てほっこりしました。清水の食べ物たくさん知ることができました。おいしかったです。

(連絡ノートより)



自主通学練習

今回の自主通学練習の課題は、自分の乗車するバスを1人で確認して、間違えずに乗車することでした。先生に教えて頂いた「路線バスの番号を意識する」ことで、自ずと行き先も確認する姿が見られました。後半は「僕、1人で行くから大丈夫」という言葉が出るほど自信もついてきていたので、最後の2日間は時間差で出発し、後ろから見守っていたのですが、路線バスの遅延の確認をしたり、走ってくるバスの行き先も確認しながら間違えずに乗車することができていました。



本人も1人で行けた（私がいるのは途中でバレてしまいましたが👂声はかけていないので…）ことで、大きな自信につながったようです。

今回の自主通学は、本人も話していた通り、バッチリ！！だったと思います。

(連絡ノートより)

居住地校交流

昨日は、交流ありがとうございました。地域の同世代の子と一緒に活動ができ、違う中学校で学習の発表ができ、〇〇にとってとても良い社会経験ができたと思います。なかなか地域との関わりが薄い中、貴重な経験ができ、とても良かったです。先生方、ありがとうございました。

(連絡ノートより)



高等部見学会

昨日は、高等部見学ありがとうございました。授業の様子、作業の様子、どれを見ても子どもたちが興味関心をもって意欲的に取り組んでいる姿が見られ、圧倒されてしまいました。

1年生の授業では静岡の名産品を学ぶ学習で、粘土でお寿司を作っていたり、おでんを作っていたり、〇〇も「自分も作りたい!!」と席に座って手を出してしまうほど心を奪われていました。自分から「おもしろそう、楽しそう」と思って始める学習スタイルにさすがだなあと思いました。

作業学習では一人一人の得意な作業を担当して、まるで職人級の作品をみんなで協力して作り上げていく光景に感心しました。「不良品を出さないように、ていねいに」と発言している生徒がいて、お金を出して買ってもらうものを作っているという意識の高さにも驚きました。どの作業もクオリティが高くて、将来〇〇にできるか心配でしたが、「買っ

てくれる誰かを喜ばせたい」という気持ちが原動力となっているところは、小学部、中学部での積み重ねの集大成だと思いました。

心を打たれる場面がたくさんで、とても内容の濃い見ごたえたっぷりの高等部でした。ありがとうございました。 (連絡ノートより)



【コラム③】Doronko パラリンアートカップ 2025 どろんこ賞 (中・高校生部門) 受賞 中学部2年 KH 作品名:「黒い雲に向う希望の女性」

<受賞者コメント>

黒雲 (大きな壁) に向かってチャレンジする、義足をつけた女性を描きました。

義足をつけた人々に、誰でもスポーツができるよとエールを込めています。

受賞の知らせを聞き、驚きと嬉しさで一杯です。

これからも好きな絵を描いていきたいと思います。



(3) 高等部

【経験からくる自信、今では自主通学！】

一人でバス、とっても頑張りました。先生方が励ましてくれるおかげだと思います。ありがとうございます。

「一人でバスに乗って行く！」と言っていたので、キッズ携帯を持たせています。自信がついたようなので、行きの通学方法を路線バスに変更したいです。運賃の支払いはチャージで行います。ルルカカードで「ピッ！」とするのがかっこいい～と言ってはりきっていました。

(連絡ノートより)



高3まで学校に送る（車で送迎）ものだと思っていました。こんな日が来るなんて思ってもみなかったです。次回の松葉かきも友達と二人、路線バスで行くと言っています。(10月面談より)

実習を機に、路線バスを利用して通勤したことで自信がつき、学校への通学も自主通学になった高2生徒の事例です。何事も経験から学ぶことは大きいですね。無理かもしれないではなく、まずはやってみることが大切なかもしれません。少しずつでも、一部区間であっても自主通学は生活の幅を広げることにつながります。誰にとっても参考にしたい嬉しい話です。(教員より)



【サッカーMVP！】

MVP!!!高校から来た外部生徒を差しおいてAが!!それは嬉しい報告です。Aに「学校でサッカーやったの？」と聞いてみたら、満面の笑みだけ返ってきました(笑)。ほめられたことを思い出したのかな(笑)。ドリブルMVP、12人の中から選ばれたんですね!すごい! (連絡ノートより)



高等部の体育の授業で行ったサッカーのドリブルのこと、家庭でも話題にさせていただいていることが嬉しい限りです。サッカーMVP!という響きがとても嬉しいですね。Aさんの笑顔、家庭でのやりとりが目に浮かびます!(教員より)

【毎日の作業学習、がんばるぞ！】

「木工班がんばる一」とはりきっていました。(連絡ノートより)



任された作業を自分で進める姿がとても頼もしいです。研磨作業では指先で感触を確かめながら時間いっぱい取り組んでおり、先生に「できました！」と自信をもって報告できています。家庭でも作業学習をがんばる！というやる気一杯な発言があったとのこと、とても嬉しく思います！（教員より）

【楽しかった校外学習！】

校外学習のおもいでを話してくれました。お土産のメロンパンもみんなで食べてうれしそうにしていました。(連絡ノートより)



12/5(金)に校外学習（西部グループ）がありました。お土産コーナーで調べていたメロンパンを見つけた時「あった！」と言ってすぐに手に取っていたようです。家庭でもたくさん話をしてきているようで嬉しく思います。(教員より)

【どうしても校外学習に行きたい！】

朝起きられないし不機嫌だったので計ったら、 38.6°C ！行けないじゃんと言うと、怒り出し何度か計ると 37°C 台なので一応支度は許し、ご飯も食べて症状もなしで。しかし、出発前何度か計って 37.6°C 位あったのでやめさせました。

お願いだから行かせてくれと初めて懇願され、ダメだと言うと外に出て行き叫ぶし…かなり行きたか



ったようでかわいそうでした。私はどうしても自分の病院に行かねばの日でおいて出かけました。昼過ぎに帰ってきた時も怒っていたが、熱はあれからまもなくして下がっていたようです。

前から焼津の話をしていて、啓ちゃんとかつおの昼飯調べて、メニューまで決めたのに大阪の店だったとか、その後、S君が見つけたおにぎり屋さんのかけ放題がおいしそうとか、、、。前日もしおりを見せてここは行くと思うとか、喜ばないまでもかなり楽しみにしていたと思うので、なぜ今発熱！？と思いました。



みさき先生が客船の外国人アテンドボランティアしてると言ってたけど、出発の時間に間に合わなかったらそのまま出発しちゃうんだって、だから1～2時間前には戻ってくるんだって、そんな事初めて知ったねーって言ってました(笑)。

かねふくに行きたいようなので、振休の日に行けばいいじゃんって言ったら、定休日でした。リベンジしてくることになると思います。(連絡ノートより)

当日は残念ながら発熱で欠席となりましたが、どうしても校外学習に行きたい！という熱い思いが伝わってきます。真剣に事前学習に取り組んでいた証拠ですね。当日は行けませんでした。職員が用意した「鰹節削り」を学校で体験しました。かねふくへのリベンジ、是非実現できると良いですね。(教員より)

【かがやき参観会より①】

高2の発表会、とても良かったです！大陸メドレーは、大人数を生かしたにぎやかなパフォーマンスでしたね。Aのブラジルの旗の振り方は、妹がほめていました(笑)。365日の紙飛行機は「泣いちゃうかも～」と思っていたけど、A一人がノリノリで…。後半は両手でピースまで…。同級生のお母さん達はもちろん、他学年のお母さん達にも「Aちゃんノリノリでかわいかった～」とほめられ!?ました。まったく緊張しないタイプですね(笑)。



リズムにのって体全体で音を楽しんでいる様子はまさに「音楽」でした！妹さんが旗の振り方をほめていたとのこと、うれしいですね！(教員より)

【かがやき参観会より②】

コンサート、とても良かったです。Yはこの学校に入り、11年目にして初めて1曲しっかり楽器演奏に参加できました。これまではぽかーんとしているうちに退場でした。でも今回はリズムも合っていましたし、良い仕事ことができました。帰宅後、夫、弟、祖父母とビデオを見直して、皆にほめてもらい、とてもうれしそうでした。ご指導ありがとうございました！私は感激してウルウルでした（泣）。自宅でも何回もビデオで見ている、Yはおどってノリノリでした。週末少しお疲れでしたが、調子は良いです！



集団の中で見せる真剣な表情、任された自分のパートを進める姿、とても素敵でした。御家庭ではビデオを見ながら、御家族全員で振り返っていただいたとのこと、嬉しく思います。（教員より）

【コラム④】全国障害者スポーツ大会 壮行会

全国大会に参加する選手とスタッフの活躍を願い、全校をあげて応援しようと壮行会を行いました！小中学部の児童生徒からも憧れの視線が向けられました！



5 校内での輝き

(1) 小学部

ア 縦割り活動

小学部では、昼休みに縦割り活動を行いました。低学年3グループと高学年3グループ、計6グループに分かれて活動しました。普段は学年での活動が多い小学部のこども達ですが、違う学年の友達や教師と楽しく活動することができました。「またやりたい!!」「今度はいつ遊ぶの。」という言葉がたくさん聞かれました。

ボールに当たらないように…
「ボール来た!」「逃げて!!」



転がしドッジボール

「もっと積めるかな?」「ぐらぐらしているよ。」「そっち、持っていて。」



箱積みゲーム

「か〜ってうれしい、はないちもんめ!」
「ジャンケンポン」 勝った♡



はないちもんめ

たくさんのお友達がいてとってもにぎやか!
ほかの学年の先生とも遊んだよ。



エアートランポリン

「はじめまして」
一緒に遊ぶの
楽しいね。

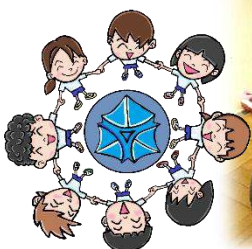


トランポリン

思い切り走って追いかけ、逃げて…鬼も逃げるのも、どっちも全力!!



しっぽ取りゲーム

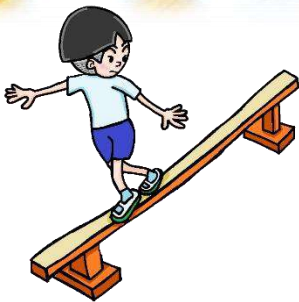


イ 小学部運動会

6月3日（火）、4日（水）に小学部の運動会が行われました。1・2年生は「よういどん!」、3・4年生は「パフェをつくろう、エイエイオー!」、5・6年生は「まわってはこんでにこにこ大作戦」を行いました。合図を聞いて走り出し、最後まで諦めない児童やペアの友達と協力する児童などたくさんの輝く姿が見られました。また、他学年の友達も一生懸命応援する様子も見られ、大盛り上がりの2日間でした。開閉会式の進行を5・6年生のなかよし委員が小学部のリーダーらしくかっこよく行ってくれました!

○1・2年生 「よういどん!」

・1年生は合図を聞いてコーンまでまっすぐ歩いたり走ったりしました。2年生は障害物を四つん這いになったり、ネットの中をくぐったりして進みました。



○3・4年生 「パフェをつくろう、エイエイオー！」

・友達と協力して、お皿やフルーツ、プリンを運んでパフェを完成させます！



○5・6年生 「まわってはこんでにこにこ大作戦」

・赤組と白組に分かれて、“やいちゃん”と“いえやすくん”にトマトとみかんを届けてどちらが早くゴールするかを競います。



ウ 焼津新聞を作ろう！（5年宿泊学習）



焼津では、かつお節づくりや鯖やの穴子の加工の作業を見学、だし教室でかつお節を削って、作っただしを試飲、焼津青少年の家ではんぺん作り体験と、楽しい活動が盛りだくさんでした。御家庭を離れての宿泊でしたが、みんなと一緒に楽しく泊まってきました。帰ってきた5年生は、『やりきったよ！』というような、キラキラした顔をしていました。荷物の準備やお風呂の練習など御家庭の協力なしでは、できない単元でした。この単元を機会にますます「自分のことは自分でやる」気持ちを持った小5の子供たちでした。

でんしゃ のるよ！

ろせんバス

かつおぶし おいしそう！

やいづの まぐろも おいしい！

へえー！ すごーい！

でんしゃ

ルルカをピッ！

かつおぶし こうじょう

しょくどう

さば こうじょう

だし きょうしつ

シュツ シュツ

レクリエーション

じぶんのことは じぶんで がんばるよ！

ねる

ゆうべの つどい

ふとんしき

z z z ~

シーツたたおよ！ よいしょ！

バイキング

はやく たべたいな！

じょうずにできた！

ふとんかたづけ

おいしい！

はんぺん作り体験

たいしょしき 退所式

ありがとうございます。

つけ包丁で すりすり！ れんしゅう 練習ばっちり！

焼津の宿泊学習を終えてから、5年生は「焼津新聞」を作って発表会を行いました。自分たちが調べたり、体験したことを発表会とかがやき参観会、そして終業式でも、堂々と発表することができた5年生、『さいこうだぜ！！』

エ 修学旅行（6年）

11月6日(木)、7日(金)の1泊2日で浜松市に修学旅行へ行ってきました。

小学部では、低学年は学校周辺の地域、中学年以降は自分たちの生活圏内である清水区そして静岡市、5年生は隣の市である焼津市について学習を深めています。そして最高学年の6年生はその集大成として浜松市について特色や良さを知り「僕たち私たちの“静岡県”が大好きになる」ような学習に取り組みます。

1日目は「浜松市科学館みらいーら」での“不思議や驚き”の詰まった科学体験、「ヤマハイノベーションロード」での“素敵な響き”の楽器体験、「うなぎパイファクトリー」の工場見学や買い物など、事前学習を経て「見たい！やりたい！」と考えたことをたくさん経験することができました。2日目は「浜名湖遊覧船」に乗船し、楽しみにしていたカモメのえさやりを体験し「浜名湖パルパル」でグループ活動を楽しみました。

お家の方から離れて過ごした1泊2日の“人生初の修学旅行”。“自分のことは自分で”“友達と一緒に頑張る”力を付けた児童たちはその後の学校生活でも小学部のリーダーとして多くの場面で活躍しています。



👉みらいーら
科学の不思議を発見！



👉ヤマハイノベーションロード
本物を存分に体験！



👉たくさんのうなぎパイ
うなぎパイファクトリー



👉浜名湖遊覧船
楽しみにしていた餌やり



👉浜名湖パルパルで思い出作り



オ 小学部マラソン大会

2月に小学部のマラソン大会が行われました。寒い中でも準備運動をして走り出すと体がぽかぽかになり、走る楽しさを感じることができました。こども達は自分のペースで走り続けたり、「〇位になる!」「〇周走るよ!」と目標に向かって走ったりと、それぞれ輝く姿をたくさん見ることができました。

